

58.2.26  
辛卯

# 資金難で4月開園ピンチ

## まだ300万円が不足

### 「善意」求め募金を開始

舞鶴市障児の社会福祉法人・みずなぎ学園が建設していた心身障害者の更生収容施設が資金難から四月の開園が危ぶまれており「市民の善意に頼るしか道がない」と、学園や保護者が募金活動を始め、協力を求めている。

この施設は、同学園が昨年八月から隣接の市有地に建設していたもので、鉄筋コンクリート平屋建てで千五百平方メートル。障害者をはじめとする中、軽度の障害者四十人、重度障害者二十人を収容、日常生活を送りながら指導、訓練する。

これまで同市には、この種の施設がなかっただけに、関係者や家族の期待は大きく、舞鶴市を中心に府北部一帯から五十人以上の入所が決まり、建物も三月末には完成の予定だった。

ところが、総事業費三億三千万円のうち一億三千万円は、府と舞鶴市が補助。同学園では自己資金と借入金、七千万円を集めたが、当初期待していた他都市からの援助が見込めなくなったこともあり、三千万円の資金不足となった。建物は計画どおりの進捗が進んでいるが、その完成、引き渡しを目前に控えたこの事態に、同学園では保護者や関係者が募金活動を始め、協力を求めている。

舞鶴市障児の社会福祉法人・みずなぎ学園理事長は「なんとか寄付には頼らず、自力で資金をまかなおう」と、最大の努力をしたが、不足分が出てしまった。この施設は府北部の障害者のため、ぜひとも必要なので、なんとかみなさんの協力を頼りたい」と話している。

同学園の連絡先は、舞鶴市障児 二五一―電話0773(600)50941へ。

58.6.2  
舞鶴

# 身障施設に122万円

## 板硝子労組 慈善バザー 収益寄付

【舞鶴】日本板硝子労組舞鶴支部（西ノ上浩司支部長、八百五十人）は一日、舞鶴市鹿原、身障者更生福祉施設みずなぎ学園（隅山陣理事長）に、先月二十日、舞鶴公会堂で開いたチャリティーバザーの収益百三万五千五百円と組合員のカンパ九万五千五百円、計百二十九万二千円を贈った。

同支部はこれまでから学園の支援に力を入れていたが、施設の拡張工事で資金不足に悩んでいることを知り、労組家族の会と共催で市内の商店や各労組に呼びかけ、不用品などを提供してもらいバザーを開いた。学園を訪れた西ノ上支部長、松本淑恵家族の会長らは食堂で園生らが待ち受ける中で、藤村友博園長に目録と現金を届け「これからも学園でつくった額縁や植木鉢などの販売に協力、支援を続ける」と約束した。



藤村園長(左)に目録を渡す西ノ上支部長(みずなぎ学園で)